

ちょっといい山 2017/10/06/FRI~10/10/火

民謡に唄われる下越の 300 名山・米山 993m
秋山郷の静かな岩稜の 200 名山・鳥甲山 2038m
志賀高原の眺め堪能の 200 名山・岩菅山 2295m
スキー場の天辺の景色 300 名山・横手山 2307m
峠の茶屋からたちまち 300 名山・笠ヶ岳 2076m

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一 同行：川原薫

10月6日 金 晴れ

東北地方の明日の天気予報は雨。登れない明日に向かって晴れている今日車を進めるよりも、どこかに登ることにして、明日の雨中に車を走らせることにしよう。当初予定の東北の山をいったん保留して、今走っている近くの山を物色する。



米山山中のブナの木
自然豊かで熊も棲み良い？

米山は民謡に唄われる下越の有名な三百名山である。今の場所から一番近い。

車でずいぶん上までアプローチして、展望の良い駐車場にたどり着く。ここから雑木林を歩き、綺麗な避難小屋などを見ながら一旦下降する辺りで展望が開けていく。

山頂には立派な避難小屋があり、その先に神社がある この広い山頂部分から眺める展望は抜群で、日本海の景色が雄大である。何枚も写真も撮る。避難小屋の中に入ると立派な板敷があり、そこは概ね 100 人ほどは泊まれそうな広さだ。日本海側の窓から淡い光線が入り、明るい広間だ。

米山は最近熊が出たとのこと。海に近く、人里に近いこんな山にも熊は細々ながら生息域を広げているのだろう。往路を引き返し、車に戻る。

水野林道登山口 11:09
12:09 米山（山頂） 13:10
登山口

さてこれからどうしたものか。最早、東北へ行く気は失せている。先のことはまだ決まっていない。ひとまず温泉に浸かる。ついでに夕食も温泉で摂って、車中泊のため道の駅に車を停める。

寝る前に明日行く山を探す 300 名山の本を繰ると、秋山郷に鳥甲山・二百名山とあり、紅葉の写真が美しい。よし、明日はこれに登ろう。行く先が決まったのでゆっくりとウイスキーをいただき、恍惚の人となる。

10月7日 土 晴れ

秋山郷へ2時間ほど走り、鳥甲山の登山口に到着。誰もいない。地図では等高線が密に入り、登りっぱなしのいい山だ。途中、岩場や鎖場、足元危うい痩せ尾根を、写真を撮り、楽しみながら通過する。谷の対面は今紅葉の盛りである。

鳥甲山頂は石がゴロゴロと転がった小さな広場となっていて、周りに木が生えて展望が望めない。昼食を摂り、そそくさと後にする。

山頂直下の分岐からは、まだ歩いていない左の方へ道を採る。この登山道は下山すると林道に到達し、今朝の登山口までそこから5キロ程歩かねばならないが、歩いてない道は魅力的だ。



高度感のある尾根だが
写真では解りにくい

長い下降路。林道に降り立つと舗装された立派な道であった。駐車場の登山口に向けてしばらく行くと、地元の人々の車が樹木の剪定の切れ端を載せて通り過ぎる。追いつくと、彼らは作業を終え、帰ろうとしていた。向こうへ、駐車場の方へ行かないですかねと言いながら歩き去ると、追いついてきて、送りますよ。これも何かの縁ですからね、と仰る。ありがたく乗せて頂いて、駐車場まであっという間にたどり着くことができた。お礼に今日のお酒のあての肴(スルメ)を渡す。私たちも同じもので今日いっぱいやりますから、労働の後に楽しんでくださいと言って別れる。

駐車場には単独の女性と夫婦連れの二組がいて、鳥甲山の登山道のことについて聞

いてくる。単独行者は明日登るといい、夫婦連れは今度登ると言う。夫婦連れは、明日は佐武流山に登ると言い、今日は車中泊するとのこと。下の温泉の駐車場を使っていいとのことであったが、もう温泉は閉まっています、ここでは入ることはできない。

夫婦連れに赤沢の温泉を勧められる。かつて初級登山学校で使ったことのある温泉だ。お湯は鉄錆で赤く濁っている。濁っているが前回来た時よりも赤みが薄いような気がする。そして非常にぬるく、浸かり続けていないと風邪をひきそうだ。亭主が、山ですか？どこに登りました？と聞いてくる。鳥甲山や佐武流山に来る人はなかなかの人達ですね。いやいや。ここに昔来たことがありますと言うと、9月の第1週の土曜日ですね。祭の日ですね。花火もありました。色々と話が弾む。

最後のオーダーということで山菜蕎麦を頂いて腹を満たし、佐武流山の登山口に向かう。雪解け水の取水場近くの所が舗装が広くなっており、車を停めるスペースになるので車中泊には都合がよい。先ほどの夫婦連れもすでに来ており、寝ようとしていた。

貉平登山口 09:25

12:59 鳥甲山 13:33

15:38 屋敷登山口

15:56 貉平登山口

10月8日 日 晴れ

佐武流山は秋山郷の奥に鎮座する二百名山である。登山口からの長い林道歩きがなかなか面倒くさそうだ。これを半分ショートカットする道の情報を昨日仕入れたので、その登山口に昨夜は車中泊した次第。今朝はこれをたどり、残り5キロほどに短縮できた林道を歩く。

林道から谷へ降りるために100mほど下降している。沢に降り立つと、ロープが張ってあり、滝の落ち口の滑の上を歩くようになっている。これを走り渡り、佐武流山へ続く尾根に取り付く。

ガイドブックでは本日の行程は往復 20 km、10 時間ほどかかることになっている。登りはパシーンと続いており、ほとんど下りがなく、非常に効率的で心地よい。樹林帯を抜け、展望が開けてくるところがある。先行者が休んでいるので追い越して、少し先の裸尾根の岩場で休憩する。苗場山がはよく見えて、陽が当たり、心地よい。

昨日の夫婦連れに行けども行けども追いつかない。分岐を右へ取り、ぬかるんだ道を歩いて行くと山頂に至った。山頂にも夫婦はいない。いったいどこへ行ったのか。

山頂は 180 度の展望が開けている。なかなかいい眺めだ。ここでゆっくりと昼食を摂る。なかなかの長丁場であった。

山頂ですいぶんゆっくりし、心をゆったりとして歩き始める。元来た道を行くと分岐の少し先で昨日の夫婦連れが登ってきた。朝早かったものだから、暗闇で道を間違えて随分アルバイトをしたとのこと。年の頃は我々よりも年配。身体が動く間は登り続ける同志のようだ。

朝の渡渉点手前で、頂上手前ですれ違った 10 人ほどのパーティに追いつく。速い、と驚かれるが、ペースは人それぞれ。我々はこのスピードでないと歩けない。明るいうちに登山口に着いた。

登山口 06:18

07:56 檜俣川渡渉点

11:39 佐武流山山頂 12:20

14:57 渡渉点

16:40 登山口

明日はどこへ行こう。この時点でまだ登る山が決まっていないのはいつものこと。鳥甲山の南西に岩菅山・200 名山を発見。鳥甲山の南側から回っていけそうに感じたが、温泉に浸かりたいので北回りに車を進める。昨日のぬるま湯はパス、熱い温泉を求めて下界へ走る。千曲川の川沿いに野沢温泉の公衆浴場を見つけた。ここでしっかり汗を流し、この日は道の駅で車中泊。

10月9日 月 晴れ

岩菅山は志賀高原の 200 名山だ。登山口からピストンも良いが、せっくなので周辺の尾根筋をトレースして山頂に至りたい。

発着スキー場の広大なグレンデを登り、尾根に上がる。ベンチが設えられた展望の良い金山沢の頭に来ると風が心地よい。先にいた人がどこへ行くかと聞いてくる。ぐるっと回って岩菅山と答えると、自分は昨日登った、今日は赤石山へ行くという。人の少ない静かな山が好きなようだ。我々も然り。

なだらかな、展望の良い尾根を楽しみながら、秋の陽射しをたっぷりと浴びながら歩く。道は時々ぬかるみを呈し、所によってはどこにも逃げられない。ままよと泥沼に踏み込んでいく。ノックリ分岐まで来ると中腹に岩塊を抱えた岩菅山が眼前に迫る。遠いようでも歩けば近い。登山口から4時間。碧空の下、広いひろい山頂に立った。



岩菅山山頂
石臺に座り展望を楽しむ

大きな平たい岩盤に腰を下し展望を楽しみつつ、少し早いが昼食。後から登ってきた城の東に住むという大阪の夫婦連れが賑やかだ。我々に裏岩菅山には行かないのかと問う。いや、行かないと答えるが、当方の嫁はいつでも行く気満々。向こうの嫁も行く気満々のようだ。標高は裏岩菅のほうが高く、登って帰り来る人に聞くと向こうの方が展望が良いと言う。なんで裏なのだ、奥にすればいいじゃないか！！お怒りはもっともだ。

40 分ほども歩くと裏岩菅山に着いた。昨日登った佐武流山や一昨日登った鳥甲山を見ているはずだが同定は面倒くさい。大体

あの辺か、で済ませてしまうところは枯れてきた証拠か！？もっと拘らねばならないな。

下山は聖平登山口へ向かったが、これが結構長かった。朝の登山口まで延々と歩き、車を回収。湯田中温泉郷の改札機のある公衆浴場で汗を流し、今宵の宿である湯田中の道の駅に落ち着いた。

この夕は思いもかけず地元の花火大会に遭遇。地元の方々は道の駅の広い駐車場に車を止め、いすやテーブルを出して家族・仲間でバーベキュー大会を始める。30分ほどで終わると思っていた花火大会は延々2時間ほど続いた。なるほどそういうことか。我々も車中からゆっくりと楽しんだ。

高天原登山口 06:37

08:31 寺子屋峠

10:32 岩菅山 10:41

12:04 裏岩菅山 12:36

13:11 岩菅山

14:25 アライタ沢

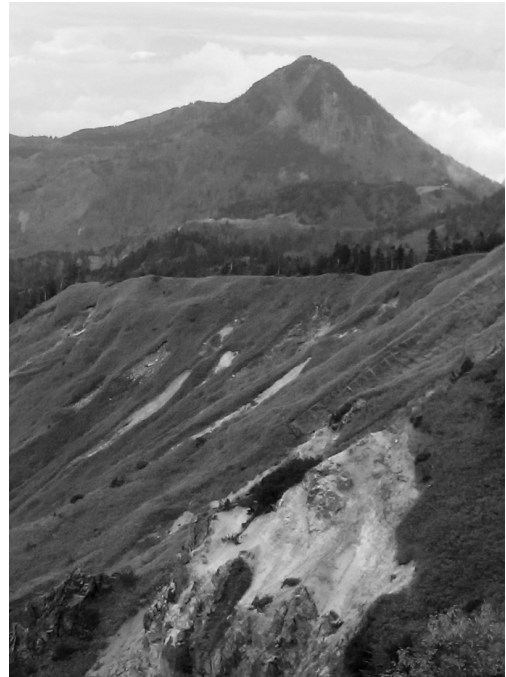
一ノ瀬登山口

み、そそくさと頂上を去った。

峠の茶屋登山口 09:48

10:08 笠ヶ岳 10:24

10:48 登山口



ドライブウェイから笠ヶ岳を望む

10月10日 火 晴れ

最終日、帰る前に横手山と笠ヶ岳に登る。

横手山はスキーで有名だ。日本最高所の峠・渋峠に車を止め、動き出す前のリフトの横のゲレンデに登る。山頂は針葉樹の灌木に囲まれているが、展望は良い。浅間山、白根山、富士山も微かに見える。山頂付近を一周し、元来た道を下り、笠ヶ岳に向かう。ドライブウェイから見る笠ヶ岳が美しく尖る。

渋峠登山口 07:36

07:58 横手山 08:22

09:06 登山口

笠ヶ岳は直下の駐車場から 40 分ほど歩くと山頂に至る。もう少し長く歩きたい場合は熊ノ湯からのコースもある。山頂には大岩が載っていて、展望が良い。丁度某労山のメンバーが団体で来ていて撮影中。シャッターを押してあげる。年配の姉さん方が多いので、それは賑やかだ。展望を楽し